# Python Django入門 (4)

Python Django

# Bootstrapの導入

Django で CRUD を作る説明の前に、Bootstrapの導入を行います。

我々エンジニアが作るHTMLは、デザイン的にも味気ないものとなってしまいます。

そこで、CSSフレームワークのBootstrapを使うことにします。

ドキュメントは英語ですが、実例が載っているので、やりたいことは見つかると思います。

# **Bootstrap**

Bootstrap で必要な jQuery を含めて、以下からダウンロード します。

- Bootstrap http://getbootstrap.com/ (v4.0.0)
- jQuery http://jquery.com/ (v3.4.1)

ダウンロードしたファイルを、mybook/cms/static/cms/ とい うディレクトリを作って、以下のように配置します。

\*.map ファイルは、ブラウザーの開発者ツールで、
JavaScriptのデバッグをしたり、HTMLの要素を見てCSSを
検証したりする際に、元の行番号を出すためのものです。
なくても動作はします。

bootstrap.bundle.min.js は、Popper.js を含む(バンドルしている)ものです。

```
mybook

cms

static
cms

cms

cms
```

なぜ mybook/cms/static/cms/ なのかというと、

- Django は static ディレクトリを、プロジェクト (mybook) 配下の各アプリケーション (cms) の static ディレクトリを探します (mybook/cms/static)
- 各アプリケーションの static ディレクトリは1つにまとめられて解釈されるため、識別のため自分のアプリケーション名(cms)を更に追加しておきます。

(mybook/cms/static/cms)

これらは、後に出てくる template の探し方の仕組みとも似ていますが、アプリケーションを独立して再利用するためのものです。

今はわからなくてもかまいません。そういうものだと思って下さい。

# django-bootstrap4

一覧系HTMLは、Bootstrapで必要なclassを手書きして、登録/ 修正のフォーム系HTMLは django-bootstrap4 という Python モジュールを使います。

 django-bootstrap4 - https://github.com/zostera/django-bo otstrap4

インストールは、pip コマンドで行います。

python manage.py runserver で動いている時は、Ctrl+cで停止してから行ってください。
(env1) 仮想環境にいることを前提にしています。

残念ながら、今まで使っていた django-bootstrap-form は Bootstrap3 で更新が止まっていて、4には対応していない ようなので、こちらに乗り換えました。

```
$ pip install django-bootstrap4
```

現時点では、1.1.1が入りました。

```
$ pip freeze -1
asgiref==3.2.3
beautifulsoup4==4.8.2
Django==3.0.2
django-bootstrap4==1.1.1
pytz==2019.3
soupsieve==1.9.5
sqlparse==0.3.0
```

確認できたら、また python manage.py runserver で起動しておきましょう。

mybook/settings.py の INSTALLED\_APPS に 'bootstrap4' を追加します。

```
INSTALLED_APPS = (
   'django.contrib.admin',
   'django.contrib.auth',
   'django.contrib.contenttypes',
```

```
'django.contrib.sessions',
'django.contrib.messages',
'django.contrib.staticfiles',
'cms.apps.CmsConfig', # cms アプリケーション
'bootstrap4', # django-bootstrap4
```

# Django の CRUD

# ビューをざっと作る

一覧、登録、修正、削除のファンクションが必要なので、
`cms/views.py' にひな形を作ります。

登録、修正は編集としてひとまとめにしています。(book\_id の指定がなければ登録、あれば修正)

コードスタイルとして、defの前も2行あけないと波線が出て、うるさいです。

```
from django.shortcuts import render
from django.http import HttpResponse
def book list(request):
   """書籍の一覧"""
   return HttpResponse('書籍の一覧')
def book edit(request, book id=None):
    """書籍の編集"""
   return HttpResponse('書籍の編集')
def book del(request, book id):
   """書籍の削除"""
   return HttpResponse('書籍の削除')
```

#### URL スキームの設計

cms/urls.py というファイルは存在しないので、新しく作ります。

左側の cms の所で右クリックして、New > Python File で urls.py と指定します。

この中で、URLと、ビューのファンクションの紐付けを行い ます。

URLとファンクション名は一致させる必要はありません。 このあたりは自由です。

```
from cms import views

app_name = 'cms'
urlpatterns = [
    # 書籍
    path('book/', views.book_list, name='book_list'), # 一覧
    path('book/add/', views.book_edit, name='book_add'), # 登信
    path('book/mod/<int:book_id>/', views.book_edit, name='book_
    path('book/del/<int:book_id>/', views.book_edit, name='book_
]
```

次に、 cms/urls.py をプロジェクト全体 の mybook/urls.py の中でインクルードします。

```
from django.contrib import admin
from django.urls import path, include # ←, includeを追加
urlpatterns = [
    path('cms/', include('cms.urls')), # ←ここを追加
    path('admin/', admin.site.urls),
]
```

最終的にURLは以下のようになります。

ブラウザで確認してみて下さい。

```
http://127.0.0.1:8000/cms/book/
http://127.0.0.1:8000/cms/book/add/
http://127.0.0.1:8000/cms/book/mod/5/
http://127.0.0.1:8000/cms/book/del/7/
```

#### 一覧のビュー

一覧を表示するビューを、きちんと書いてみます。

cms/views.py の def book\_list を以下のように修正します。

# 一覧のテンプレートを作る

mybook プロジェクトの cms アプリケーションで使う book\_list.html というテンプレートを作成します。

位置は、以下のようになります。

mybook/cms/templates/cms/book list.html

その前に、これの継承元となる base.html というテンプレートを作成しましょう。

左側の cms を右クリックして、New > Directory で templates を指定 template を右クリックして、New > Directory で cms を 指定

cms を右クリックして、New > HTML File で base.html を指定、といった感じです。

mybook/cms/templates/cms/base.html

base.html の中身は、以下のようになります。

```
{% load i18n static %}
<!DOCTYPE html>{% get current language as LANGUAGE CODE %}
<html lang="{{ LANGUAGE CODE|default:"en-us" }}">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-sca</pre>
<link rel="stylesheet" href="{% static 'cms/css/bootstrap.min.</pre>
{% block extra css %}{% endblock %}
<title>{% block title %}My books{% endblock %}</title>
</head>
<body>
  <div class="container">
   {% block content %}
     {{ content }}
   {% endblock %}
  </div>
<script src="{% static 'cms/js/bootstrap.bundle.min.js' %}"></</pre>
{% block extra js %}{% endblock %}
</body>
</html>
```

それでは、この base\_html を継承して mybook/cms/templates/cms/book\_list.html を作成します。 こちらは必要な所のみを書いていく形となります。

class に指定しているのは、Bootstrapで必要な class です。

```
{% extends "cms/base.html" %}
{% block title %}書籍の一覧{% endblock title %}
{% block content %}
  <h4 class="mt-4 border-bottom">書籍の一覧</h4>
  <a href="{% url 'cms:book_add' %}" class="btn btn-primary |</pre>
  <thead>
    >
     ID
     書籍名
     出版社
     ページ数
      操作
    </thead>
   {% for book in books %}
    >
     {{ book.id }}
      {{ book.name }}
```

```
{{ book.publisher }}
{{ book.page }}
{{ ctd>{{ book.page }}
{{ book.page }}
{{ ctd>{{ ca href="{% url 'cms:book_mod' book_id=book.id %}" ca href="{% url 'cms:book_del' book_id=book.id %}" c/td>
{{ content %} c/tr>
{% endfor %} c/tbody>

{% endblock content %}
```

#### それではブラウザで確認してみましょう。

http://127.0.0.1:8000/cms/book/



#### 追加、修正のフォーム

cms/forms.py というファイルを作って、以下のように記述します。

ここでは、 cms/models.py の Book モデルを追加、修正するための元となるフォームを作成します。

```
from django.forms import ModelForm
from cms.models import Book
```

class BookForm(ModelForm):

"""書籍のフォーム"""

```
class Meta:
   model = Book
   fields = ('name', 'publisher', 'page', )
```

#### 追加、修正のビュー

cms/views.py の def book\_edit を以下のように修正します。

```
from django.shortcuts import render, get object or 404, redire
from django.http import HttpResponse
from cms.models import Book
from cms.forms import BookForm
def book_edit(request, book_id=None):
   """書籍の編集"""
   # return HttpResponse('書籍の編集')
   if book id: # book id が指定されている (修正時)
       book = get object or 404(Book, pk=book id)
                # book id が指定されていない (追加時)
   else:
       book = Book()
```

```
if request.method == 'POST':
    form = BookForm(request.POST, instance=book) # POST さ
    if form.is_valid(): # フォームのバリデーション
        book = form.save(commit=False)
        book.save()
        return redirect('cms:book_list')

else: # GET の時
    form = BookForm(instance=book) # book インスタンスからつ

return render(request, 'cms/book_edit.html', dict(form=form))
```

### 追加、修正のテンプレート

mybook/templates/base\_html を継承して mybook/cms/templates/cms/book\_edit.html を作成します。

```
{% extends "cms/base.html" %}
{% load bootstrap4 %}

{% block title %}書籍の編集{% endblock title %}

{% block content %}
  <h4 class="mt-4 mb-5 border-bottom">書籍の編集</h4>
  {% if book_id %}
```

cms/forms.py の BookForm で定義した項目を、
cms/views.py で form という変数でテンプレートに渡し、
{% bootstrap\_form form layout='horizontal' %} と
書いている form の部分で、フォームの内容がHTMLで展開
されます。

ここではさらに、 bootstrap\_form タグを使うことにより、 Bootstrapの書式に変換しています。

書籍の登録ページは、以下のようになります。



# 削除のビュー

cms/views.py の def book\_del を以下のように修正します。

```
def book_del(request, book_id):
    """書籍の削除"""
    # return HttpResponse('書籍の削除')
    book = get_object_or_404(Book, pk=book_id)
    book.delete()
    return redirect('cms:book list')
```

それでは、書籍の一覧ページから「削除」ボタンを押して、 書籍を削除してみてください。



いきなり消していますが、本当は Bootstrap の モーダルダイアログを出して、確認メッセージを出した方がいいでしょう。

これは後に取り組むこととします。

Python Django入門 (5) に続きます。